

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	守屋 咲希 (****年**月**日)
本籍	*****
学位(専攻分野)	博士(感覚矯正学)
学位授与番号	甲第179号
学位授与日付	令和4年9月21日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論文題目	失語症者の適応に関わる諸要因の経過的变化に関する研究
審査委員	教授 秋定 定 教授 宇野 雅子 教授 種村 純

博士論文内容の要旨

8名の生活期失語症者とその介護者を対象として、社会適応の経過とその関連要因に関する面接調査を行った。「脳損傷結果の生物・心理・社会的モデル(Evans, 2006)」の各要素の関連性を時期ごとに分析した。適応状態の変化にはコミュニケーション環境、介護者の認識、失語症者の障害および現状の生活の受容、価値観の転換が関与していた。これらの要素間の関連性は経過時期ごとに行った計量テキスト分析により確認された。

博士論文審査結果の要旨

調査対象期間が2年から6年と、症例ごとに相違する点について疑義が出され、発表者は時間的な長さによって適応状態の変化が生じるわけではなく、生活上の変化が影響し、そのため調査対象期間が短い対象者でも適応状態の変化は複数回生じていたため、分析には支障がなかったことを説明した。一方、調査対象期間が長くても適応状態に大きな変化がなかった対象者は発症前から退職しており、発症に伴う生活の大きな変化を経験せず、受容が進行した、と説明した。また、8名とも最終的に適応良好であったが、経過中には2名がうつ状態を示したことを指摘した。審査員はケースフォーミュレーションの形式で行われた質的分析に加えて計量テキスト分析が行われ、分析の妥当性が検証されたことを高く評価した。